

動物に
好かれ
まくる

体質

の少年

ダンジョンを探索する

配信中に
レッドドラゴン
を手懐けたら
大バズリ
しました！

2

Momiji Minase

海夏世もみじ

ムキムキピーマン

“かくせい熟成”して人型になった
ピーマンの魔物。

黒岩牙狼

有名クラン“シャドウファンゲ”
のリーダー。キレやすいお年頃。

彩芭ラプソディー

スーパーサイバーラプソディー
謎の地下組織、超電脳狂詩曲を束
ねるボス。電脳世界で暗躍している。

雨波ルハ

とある組織に属する美
少女暗殺者。忍者のよ
うな戦闘スタイル。

鬼蛇穴凜理

見た目も口調もカンベきなお
嬢様。だがその本性は……。

幻獣“叢雲獅子”

吠太の幻獣の一体。名前は、
マシュ丸。天候を操るすごい子。

天宮城美玲

超人気美少女配信者。配
信者名は“あまみや”ちゃん。
もふもふ好きだが、もふもふ
からは好かれない。

藍堂咲太

本作の主人公。女の子のような見
目で、動物に好かれまくる体質を
持つものの、いたって普通の高校
生。ひょんなことからダンジョン配
信を始めることになった。

登場人物紹介

第1話

深層三階のボスを撃破したあと、僕、藍堂^{あいどうさくた}咲太はダンジョン内をズンズン進んでいた。けど、なんだか雰囲気が変わったような気がする。

僕のあとについてきていた魔物たちがバタバタと倒れ出し、妙な気配が奥から感じられる。

「みんなだらしないな。急に寝ちゃって」

..異常だよな？

..「だらしないな」で済ましてるサクたんが異常w

..なんかうなされてるくね？

..少しは慌てなさいww

..精神汚染系の攻撃っぽいな

..→じゃあなんでサクたんには効いてないん??w

..またバナナのこと考えてる顔してるし……

「精神汚染とかあるんですね……。まあ僕の脳には今、『電子鰻』がいるので心配ごむよーです！」

…体内で飼育してる

…そう考えると強いなあ……。w

…寄生虫を体内で飼う人思い出したw

…怖いよう

…精神攻撃無効化ッ！w

実は、うなぎ以外にも二匹の幻獣が僕の体内にいる。

一匹は僕からだいたい500ミリリットルの血がなくなった時に現れる子で、もう一匹は僕のどこかしらの体の部位が消失した時に現れる子だ。

どちらも暴れ始めたら、涼牙りょうがを呼ばなきゃいけないくらい大変だし、大人しくしていてほしいね。

#

それはさておき、その後もダンジョンを進んでいたのだが、やはりどの魔物もうなされているようにうついてくることはない。

同じ影響なのか、以降の階の魔物もスルーすることができた。

「はあー……。疲れた。けどここがラストですね！」

延々と歩き続けること数十分、とうとう第七階層のボス部屋の前までたどり着く。

…いよいよだな……

…なんで魔物のサポートなくてたどり着けてんだよw

…サクたんってたぶん豪運ごううん体質でもあるよな

…不幸体質でもあるような……

…→どちらもありうる、そんだけだ

…お前ら備えろッ！

…ボス部屋入るぞッ

…これがラストバトルか

ボス部屋に入ると、そこには紫色の靄もやのような存在がいた。目はないのだが、こつちを確かに見ているような気がする。これが七階のボスなのだろうか？

「んー？ あれなんですかね？」

…確か、ザ・ナイトメア”って魔物だった気がする

…ス○ンドみてえな名前だな

…海外のダンジョンでも見つかった奴かな？

…夢空間に連れていき、そこで戦闘になる。時間内に倒せなかったら、永遠に悪夢に囚われる……とかだったような？

…じゃあ今のサクたんには効かねえな！

…勝ったな。風呂を食え

…いや、しかし様子がおかしいぞ？（英語）

…私たちの国で目撃されたものはもっと小さかったような……（英語）

…まずいぞ。それは強化個体かもしれない！（英語）

しばらく様子を見てみると、靄を中心^{もや}に空間が塗り替えられていった。

その空間は一面がモノクロの世界で、大都市のようだが木々が生い茂り、葛^{つた}がはびこっている。

どこか懐かしい感じがする。

そして靄はポコポコと音を立て、違う姿へと変身していく。

「そ、そんな……あれは……!?」

『オ、ア、アアア……!!』

「い、イヤだあああ……っつっ……!!」

緑と紫の体色でギョロギョロとした目玉や口が付いた僕の天敵……もとい、ピーマンがそこにい

たのだ。

…天 敵 降 臨

…やはりピーマンが立ちはだかるww

…キモすぎるww

…人型 + 多眼 + 悪い体色 + 奇声

…前回のピーマン戦、サクたん負けてるからなあ……

…【悲報】ボスの強化個体、ピーマンの姿になる

…サクたんメタで草

…もう終わりだねこの配信w

…さしずめ、ナイトメアピーマン^ンといったところか

#

——深層七階ボス、ザ・ナイトメア。

本来ならば自らの夢空間でのみその力を発揮する魔物だが、強化個体のために、悪夢の力は現実
にまで干渉する。

強化の第一段階は、対象の心の空間を現実^{じつ}に展開。第二段階、対象が最も恐れるものへの形態変

化。そして第三段階、対象を内側から蝕む。

「あば、あばばば!! どどどどうしよう……と、とりあえず誰か来てー!!」

すでに第三段階、その心の蝕みは絶大であった。

咲太の心を悪夢で染め上げる。

つまり、咲太の場合は、^レピーマン^で埋め尽くされていた。

だが彼には、心で強くイメージした幻獣や魔物を、^レ鍵^で ^{ゲート}扉^{から}呼び寄せることができるという、特殊な能力があった。

つまり、心で強くイメージしてしまったということは――

『ピ、ピーマン……????』

…ムW キW ムW キW ピーW マW ンW

…お前、あの時の……ッ!W

…ピーマン「待たせたなあ!」

…帰ってくれW

…やめろピーマン! 戻れ!!

…相も変わらずシックスバックが美しい

意図せず呼び寄せられてやってきた魔物――咲太が料理配信の時に会った、ムキムキのピーマン

である。

巨大なピーマンに手足が生えているというその異様な姿を見てしまい、咲太はもうだめだった。

――ボタンッ。

気絶してしまった。

…え、あ、あれ? サクたん?

…これってもしかしてだけど……

…めつつちゃピンチでは!?

…起きろサクたん! みんなん! ……!!

…サクたんが起きてないと幻獣召喚できない。他の階層の魔物はうなされてる

…ピーマンなんとかしてくれえ!! W

…深層強化個体ボスとかいう無理ゲー

…ピーマンの荷重すぎんだろ!

『ピマピマ……ピイマピーマン』

ピーマンは咲太の前に立ち、ナイトメアから守ろうとする。

…守ろうとしてくれている……!?

…盛り上がってきた

…何言ってるかわかんねえww

翻訳マン…(状況がまだわからないが…：ピーマンの風上にも置けない風貌だな) って言ってるぜ！

…→キツシヨ、なんでピーマン語わかんだよw

…翻訳マン、同時翻訳しろ。

翻訳マン…わかった！

『(この少年はピーマンを食べてくれた優しき少年だ。手を出すことは許されんぞッ！ うおおお おおお！)』

——パキヨッ！！

ナイトメアの拳がピーマンの腹に当たると、良い音が鳴った。ピーマンは中に詰まっていた小さな粒の種を撒き散らしながら天井へ吹き飛ばされた。

そして、ナイトメアは一歩一歩咲太に近づく。

…ピーマアーン！！！！

…やっぱり、ダメだったよ

…ま、待て、ナイトメアピーマン。鼻☆塩☆塩(はなしをしよう)

…や、やめてえ……

…やばいやばいやばい

…助けが来ねえ！

…まあ深層七階だし……

…ボスだから体質もやっぱ利かないじゃん

リスナーは無力にもただ見続けることしかできない。

そしてとうとう、ナイトメアは床に横たわる咲太の側まで来てしまい、腕を振り上げる。

『ア……ハハ……ッ！！』

…やめろおおおおおお！

…終わった

…だからやめとけて……！！

…もう無理

…ああ……

——ドゴオオオンッ！！！！

瞬間、ダンジョンが大きく揺れるほどの轟音が響き渡った。

『……アア……?』

…あ……?

…なんだ?

…サクたんが殴られた……わけではないっぽいな

…じゃあなんの音だよ!?

…誰でもいいからヘルプヒム!

…早く今のうちに……

ナイトメアは顔を上に向け、音の正体を確認しようとする。

轟音は再び鳴り響き、それは遠くからどんどん近づく。そして、この階の天井が破壊され、すいせい星のように誰かが降りてくる。

——ドガアアアンツ!!!!

それは高架橋の上に着地し、そこを真つ二つにしてみせた。

…うおおおお!!?

…登場の仕方がかつこよすぎるww

…高架橋真つ二つにした……

…誰だ!?

…リョーガか?

…ゴリラ化したあまみやちゃんかもしれん

『ヴェ……アアア!!』

——ヴンツ。ボグツ!!!!

『ガハッ……!!?!?!?』

それは亜音速で移動をし、ナイトメアの顔面に拳を振るい、ナイトメアを遥か遠くまで吹き飛ばす。

吹き飛ばされつつ建物を次々と貫通するナイトメアから、その誰かの拳の威力が強大であることが窺えた。

その者の体表からは煙が出ており、真つ赤に染まっている。

…お、お前は……!!

…なんで生きてんだよww

…覚かく醒せいイベント

…私が来たツ!!

…さっきは笑ってすまん……

…ムキムキピーマンだ！……！

『ピマピマ……！！！！』

駆けつけた者の正体は、先ほど咲太が召喚したムキムキのピーマンであった。
だが、ピーマンであるのは頭部のみとなり、その体は鍛え上げられたボディビルダーのようになっ

ていた。
また体表は緑ではなく、怒りに染まったかのように真・赤・赤・赤になっている。

…人型になつてる!?

…赤くなつて、熟してるwww

…ボス殴り飛ばしたぞ!?!?

…完熟モードだな

…強スンギw

…よし、仕事だぞ

翻訳マン…こつからが本番だな！ テンション上げて翻訳していくぜ!!

『(時は満ちた……そして、私は熟成^{かくせい}したッ!! 子供たちの健康を望む全緑黄色野菜の代表として、この少年は私が守ってみせる……!!)』

『ゲゲ、ゲゲ……ギャギャギャー……!!』

Eランクの「食料庫^{ダンジョン}の迷宮」で遭遇したムキムキなピーマン。

なお、Eランクダンジョンで現れるには明らかにおかしく、ゆえにこの魔物はイレギュラーであるが、この深層での戦闘についていけるほどの強さはない。

……通常ならば。

だが制限時間内の制限解除、^{リミットブレイク}もとい熟成^{かくせい}した状態ならば、万物を破壊し、全てを蹂躪^{じゅうりん}できるほどの力が引き出せる。

そう、かのXランク探索者の高力涼牙^{たかりき}に並ぶほどの戦闘力を引き出すことが可能となるのだ!

『ヴガアア……!!』

『ビタミンCパンチッ……!!』

ナイトメアは触手を伸ばして攻撃を仕掛けるが、ピーマンが拳を振るうとその触手は蒸発した。
ピーマンは再び距離を詰め、ナイトメアの腹に拳を打ち込んで吹き飛ばした。

『(少年少女たちの教育に悪い見た目だな。手っ取り早く貴様^{ほうむ}を葬^{ほうむ}り去ってやろう)』

この魔物は新種の魔物、それゆえに、発見者が名付け親となる。Sランク級の魔物さえをも凌^{しの}ぐこの個体名は——ムキムキピーマン^ンとなった。

…少年少女を助ける魔物、ムキムキピーマンッ!!

…ピーマンがこんなにカッコいいと思う日が来るとは思わなかったww

…うし、ピーマン買ってくるわ

…口ないのになんでしゃべれてんだ……？

…→真のピーマンだからだよ

…真のピーマンってすごいんだなあ

…ムキムキピーマンしか勝たん♡

…このままだとムキムキピーマンファンクラブとかいう謎組織が生まれてしまうww

『ギガア……!! ジャア、マ、ス……ルナアア……!!!!』

『(怒って血圧が上がっているようだな！ カリウムが足りてないんじゃないのか!?)』

——ズガガガガガガガガンッ!!!!!!

ピーマンはナイトメアの猛攻を両手の人差し指と中指だけで捌ききっていた。

だが時間が経つにつれ、ナイトメアの攻撃のスピードと威力が上がり、周囲の建物が壊れ始める。

『(フム……ここは少年が近くて危ない。場所を変えようかッ！ βカロテンキック!!)』

脚で横薙ぎ一閃。

ナイトメアは後方に吹っ飛ぶ。それに次いでピーマンは足を踏ん張り、クレーターができるほどの力で地面を蹴って、ナイトメアを追う。

…おおお!!!?

…すんげーバトルww

…俺たちは何を見せられてるんだ……？

…ナイトメアピーマン VS 熟成ムキムキピーマンだよ

…ナニコレえ

…見る 無量〇処

…ってかピーマンの方にこのカメラ向かうんやな

…撮れ高がわかってる配信用カメラだなw

…実際そう

…頑張れ——!!

『ギア、アア……!!!!』

『(どこを見ている?)』

『!?!』

ナイトメアは空中で体勢を整えて正面を向くが、そこにはピーマンがいない。

その洪い声は、ナイトメアの背後から響いていた。

ナイトメアが振り向く時間も与えず、ピーマンの重い一撃が再びナイトメアの顔面に炸裂して、ナイトメアは地面に叩き落とされる。

『オ、オオ……!! ゴ、ロス……!!!!』

『（私は子供たちの健康を守るために存在している。まだ死ぬわけにはいかない。さあ、ここなら存分に暴れても構わんなー！！）』

深層七階のボス戦は、まだ始まったばかりである。

第2話

咲太から離れた場所で睨み合うナイトメアと熟成ムキムキピーマン。
ナイトメアは警戒した様子のまま、攻撃を仕掛ける様子はなかった。

対してピーマンは顎に手を添え、感心した様子でいる。

『（……なるほど。いつの間にやら実を作られていたようだな）』

『『ギヤギヤギヤ!!』』』

全方位から、大量の小型ピーマンが飛んでくる。

それらは紫色で、蝙蝠の羽が生えている。口が付いているので叫べるようだ。

…キモッ！

…邪悪度MAXのスプ○にしか見えんww

…これは確かに悪夢だあ……

…ってかこれやばくないか？

…囲まれてるやんけ！

…負けるなピーマンww

『（……数が多すぎて厄介だな。フンッ！ ヌンッ!!）』

ピーマンは一体、二体と次々に小型のナイトメアピーマンを蹴り飛ばしていく。

そうして蹴り飛ばすスピードを上げ、次第に回転が生まれる。

その回転力を生かし、体を逆さにしてブレイクダンスをしだした。

——ビュオオオオオオツツ!!!!

『ギギ、ガァ……ツ!?!?!?』

地面のアスファルトが剥がれ、ビルのガラスは割れ、木々は根ごと巻き込まれ……ピーマンが引き起こした嵐が、ことごとくを巻き込み始める。

嵐もといブレイクダンスが終わる頃には、小型のナイトメアは全て消え失せていた。

…ナニコレ

…→ブレイクダンスだが？

…（全てを）ブレイク（する）ダンス

…めちゃくちゃじゃねえかww

…もつこのピーマン一人でよくないですか……

…ってかよくこのカメラは耐えたな
…竜巻の中心にいたから大丈夫だったらしい

『オ、マエ……!!』

『(H A H A H A !! 最後の晩餐会だぞ! 存分にピーマンを味わうがいい!!!)』
『ッ……!?』

ピーマンが拳を振りかざした途端、ナイトメアは跳ねて横に回避しようとする。
しかしその一瞬を見逃さず、ピーマンは拳を地面に振り下ろした。

——ズガアアアアアンッ!!!!

すると地面は真つ二つに割れ、それが左右に隆起して壁のようになった。

ナイトメアの逃げ場がなくなる。

逃げ場を失い狼狽する暇もなく、ピーマンの拳が再びナイトメアにクリーンヒット。ナイトメアは体を吹き飛ばされ、ビルに衝突した。

間髪容れずにピーマンは攻めの姿勢を続けて直してビルを離れる。

だが、ナイトメアは急いで姿勢を立て直してビルを離れる。

『(ビタミンE手刀!)』

すると、キンッという音が響いた。

ピーマンの一撃でビルは斜めにスライスされ、ゆっくりとスライドしながら落ちていく。

…ええ……(ドン引き)

…これがEランクダンジョンにいたってマ???w

…化け物エ……

…ビルがスライスされたww

…ピーマン最強! ピーマン最強!

『殺、ス!!!!!!』

『(そういう言葉は使わないでもらいたい。子供が聞いたらどうする?)』

『ア、ア、ア、ア!!!!』

ナイトメアはボコボコという音を立てて拳を肥大化させ、ピーマンにそれを放つ。一軒家ほどありそうな拳だ。

……だが、ピーマンはその上をいく。

スライドしてきたビルを片手で受け止め、掴み、叩きつける。

『ヌオオオーッ!!』

——ドッッゴオオオオオオオンッ!!!!

ビルを武器のように振り下ろし、ナイトメアはその圧倒的重量の下敷きとなった。

しかしながら、さすがは深層のボスといったところか。まだ息をしており、唸りながら瓦礫の隙

『ア……ア……!! ジャ、マ、スル』

『——もう、終わりにしよう』

「ア——」

両腕に力が込められてビキビキと音が鳴り、プシューッと湯気がさらに上がる。その拳のエネルギーは言わずがな、ナイトメアに炸裂した。

『(クエルシトリンラッシュ!!)』

ズガガガガガガガガガガガ！！！！

体を全て削り取る勢いで拳を放ちまくり、ナイトメアを天井まで吹き飛ばす。

一瞬静寂に包まれたあと、ピーマンは人型のまま、その体色が赤から緑へと戻った。

..
うお
おお
おお
おお
おお
！！！！

..やりやがつた
WWW

..【超速報】深層七階ボス、ピーマンが撃破！

..ムキムキピーマン神ー！

..ビル掴んで殴るって何？w

..理解できぬ

..連続ピーマンパンチ威力えつく

..【¥50000】推しになりました

【¥50000】ムキムキピーマンこっち向いて〜!♡

..なお、配信主はまだ気絶してる模様w

..ムキムキピーマンchはどこですか？

..なんだ……これ……
（英語）

..サクちゃんとマッスルヒーマンは手を出したらダメということだね(英語)

..ジャパン恐ろしい(英語)

これにて一件落着……とはならなかった。

[illegible]

ピーマンは天井を仰ぐ。あお

するとそこには、巨大な渦を纏うナイトメアの姿があつた。力をその渦に収束させているのか、時折稲妻が走つて渦々しい様子だ。

『ゼ、ンブ……消^けシ炭^{すみ}ニ、シ、テ、ヤル!!』

『フムフム……。これは——諦めるしかないようだ』

ふあつ!!!?

..
ヌ
.....
?

…まだ生きてたんか

…ムキムキピーマンでも勝てないの？

…マジかよ……

…けどあの形態は本気でやばそう

…本当に終わり？

…最悪だよ……

リスナーたちも諦めムードになり始めている。

ナイトメアが渦を巨大化させる一方、ピーマンは言葉を零す。^{こぼ}

『無傷で勝ち、ピーマンの強さを感じてもらい、健康体の模範となりたかった……。だがもう無理なようだ。ああ、諦めよう。——無傷で勝つのは諦めようか……。!!』

腰を据え、右拳を握り、左手で包む。

もう熟成モードは使えない。^{かせい}

だが、右腕だけを真つ赤に熟成させた！

『（少年は必ず守る。たとえこの実がボロボロになろうとも、勝利を少年に届けるのさ!!）』

ピーマンは真つ赤に変色している右腕に、さらに力を込める。湯気が上がり、さらにはバチバチと稲妻も溢れ出していた。

『（……おそらく、奴の攻撃を回避することは可能だろう。だが、避ければ少年がどうなるかは目

に見えている。ここで私が……奴を仕留めるしかない……。!!）』

…頑張れピーマン!!

…今日野菜炒めにするからあ！w

…勝って！ 勝てや！ ムキムキピーマン!!

…流れ変わったなw

…【朗報】ムキムキピーマン、奥の手を繰り出す模様

…ピーマンはなあ、負けないんだよ……!!!!!!

…ここまで頼もしいピーマンがいただろうか。いやいらない（反語）

…ピーマン嫌いなのにっ！ ピーマンに惚れちまうよ！w

ナイトメアとムキムキピーマンは、互いに力を蓄え続ける。

ナイトメアはブラックホールのように全てを包み込みそうな渦。ピーマンは暗い宇宙の一等星がごとく煌めいていた。^{きら}

『悪夢、ヲ、蔓延、サセル……。夢、ヲ……。コナゴナ、ニ、シテヤル……。!!』

『（H A H A H A H A!! 私の夢を粉々にする、か。言ってくれるじゃあないか……。良いだろう、冥土の土産に教えてやろう。私の夢をな）』

高笑いをしたあと、ピーマンはポツリポツリと語り始める。

『(私の夢は、全世界の人間の子供たちの体を健康にし、長生きさせることさ。人と魔物、そう簡単には相容れないことは重々承知だ。だが、叶えてみせたいのさ)』

『夢、ナド……馬鹿馬鹿、シイ!』

『(……夢に想いを馳せ、^{ひた}浸るのは大いに結構だろう。だが貴様の言う通り、夢に浸り続けて^溺溺れるのは間違っている。ぬるま湯に浸^ひかり続けるのは良くない。……だから、だ。だから私は、今、^こ此処で! 夢を叶えるため、ぬるま湯から上がり、貴様^{けんじつ}と向き合い、戦い、勝って——夢への一歩を踏み出したいのだ!——!』

…カッコよwww

…名言いただきました

…ピーマンが言ってるってなるとジワジワくるw

…かつちよいいだるオ??

…ピーマン、お前第二でもいいから主人公になれ

…てかもうそろやばそうだな

…発射しそっじゃね!?

——ゴゴゴゴゴゴ……!!

地響きが大きくなり始める。

ナイトメアの渦が天井一面に広がっているのに対し、ピーマンは地面にクレーターができるほどのエネルギーをチャージしていた。

互いに、臨界点間近である。

『(私の夢は叶えられそうにないほど馬鹿げているだろう……。だが叶えたいのだ……。! H A H A、あの少年一人救えないようだったら、この夢を叶えられるわけがないんだよなあ!!)』

『モウ、イイ。消エ、ロ』

『(安心してくれ少年……。必ず——守るさ)』

——バチッ、バチッ……!!

ナイトメアの渦の中心に、^{こんどん}混沌とした色のエネルギーが収束し始めていた。ビルは大きく揺れ、倒壊し、威力がとてつもないことが感じられる。

しかしピーマンのやるべきことは一つ。拳を振るうのみ。

『(我が最高の奥義^{おうぎ}……^{りよくおうしよくにかみめつけん}緑黄色苦神滅拳——)』

『消エ、失セロオオオオオ——ッ!!!!!!』

——ドヴッ!!!!!!

ナイトメアの収束されたエネルギーは光線となって放たれた。当たれば一瞬にして蒸発しかねないほどの威力が詰まっている。

だが、ピーマンは臆することもなく、^{かくしやく}赫灼する拳をその光線に向かって——放った。

『(——^{りこ}理虚飛无)』

刹那、世界から色と音がなくなった。

理も、虚空すらも全てどこかへ吹き飛んでいったのではないかと錯覚してしまうほどに。
だが次の瞬間、

——ドツゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオンツッ！！！！！！
遅れて轟音が響き渡った。

…うごごご耳がー！

…ど、どうなったん……？

…よくわからんが……なんか、明るい？

…ピーマンは無事なのかよ!?

…頼む

…やったか？

…→消えな

…あ、見えたぞ！

『（……敵ながら天晴れであった。この私の葉緑体に刻み込まれたほどだ）』

天井にはナイトメアの姿はなく、代わりに深層七階より上の全上層をぶち抜いてダンジョン外の
陽光が差し込んでいた。

その陽光に照らされるは——

…ムキムキピーマン——っ!!

片腕がなくなり、傷だらけになりながらも立ち続けるムキムキピーマンの姿がそこにはあった
のだ。

今度こそ、紛れもなく勝利を手にした。

深層七階ボス、ザ・ナイトメア——撃破。

#

「う、うーん……？」

なんだか変な臭いがするような……。まるでピーマンに包まれているかのような変な感じがする。
その正体を確かめるべく、僕——咲太は重い瞼を開ける。

いつの間にか外に出ていたのか、太陽の光で体はポカポカとしていた。
そして周りを見てみるとそこには——

『ビマピーマン——』

「ひやあああああああ！？！？」

ムキムキピーマンが僕の顔を覗き込んでおり、僕は咄嗟に悲鳴を上げてしまう。

…サクたん！ そのピーマンは良いピーマンだぞ！

…助けてくれたんやで

…七階ボス倒したからなww

…感謝の意を込めてピーマン食え

…ピーマン！ ピーマン！

…ピーマンイズゴッド

…時代来たね

「リスナーさんたちがピーマンに洗脳されてる……!?」

だんだんと思い出してきたけれど、今僕が生きているということは、本当にこの人型のムキムキピーマンがああ悪い悪いピーマンを倒してくれたってことなのだろう。右腕とかもないし、頑張ってくれたみたいだ。

すごいなあと感じっていると、突然ピーマンは左腕で僕を包み込み、抱き上げた。

「な、えっ!?」

『ピーマピマ、ピママピイマン……』



翻訳マン…(少年が無事で、本当に良かった……) って言ってるぞ！

…ピーマン………”

…泣いてまうやろ

…優しい世界

…野菜生活

…→そのネタが否定しづらい珍しい状況だww

…ピーマン、お前がMVPだ

その後、鍵によってピーマンは元いたダンジョンに帰ることとなった。

「あ、あのさ……本当に、ありがとう。きよ、今日はピーマン、家帰ったらちゃんと食べるよ！」

『……ピーマンッ』

ピーマンは、人差し指と中指をくつつけながら立て、振り返らずにピッとハンドサインを送ってくる。

本当に不思議な魔物だったなあ。ピーマンは苦手だけど、あのムキムキピーマンは信頼してもいいかもしれない。そんなことを思ったりしてみた。

——こうして、近所で起きた大氾濫は終息したのであった。

第3話

——シャドウファング本拠地にて。

「ふ、ふ……——ふざけるなああああああああああああああああああああああ!!」

その一室で、配信を見ながら叫び声をあげる人物がいた。

この男こそがシャドウファングのリーダーであり、大氾濫を人工的に起こす計画を立てた人物——黒岩牙狼だ。

「一階はマグマビーム、二階は巨大対決、三階は変形幻獣う？　もう訳わかんねえよ！　最後に至ってはなんだあのピーマン！　クソが!!」

ドカッ、と近くにあった椅子を蹴り飛ばして破壊する。

東京での大氾濫は、駆動ゼロの活躍によって被害はほぼゼロに等しい。

そして愛知の大氾濫は咲太によって、被害は建物の倒壊だけで済んだ。

しかしそれだけではない。シャドウファングが独占していた深層の情報、今回の配信によって公に晒されてしまったのだ。

これにより、このクランの損失はとんでもないことになった。

牙狼はこめかみに血管を浮かべて、顔を真っ赤にするほどキレていた。

「クソッ、クソックソッ！　サクたんとかいう配信者……！　オレたちが念入りに計画してきたも

のをぶち壊しやがって！ ……覚悟はできてんだろぅなァおい！！」

シャドウファングの邪魔をした者、スパイ、裏切り者などは全員、この世から消されているか、社会的に生きていけない制裁を下されている。

この牙狼という男は、言動こそアレだが、計画を念入りにしてほぼ確実に成功させる男だ。

「サクたん、動物に好かれまくる体質で幻獣を侍らす配信者……。真っ向勝負をしなくとも、違う方法で殺すことだって可能だ。ククク……せいぜい今を楽しんでおけよクソガキ……！」

次の標的が決まった瞬間だった

#

「よおお前ら、待たせたなあ!!」

ダンジョン内に響き渡る爽やかな声。

その正体は咲太……ではなく、この俺、高力涼牙である。

「リョーガだぜ！」

…きちゃ〜！

…SNSで見たぞ

…サクたんの代わりにこっち見るかあ……

…致し方がない

…Xランクの配信は貴重なんだよなあw

…でもリョーガだし……

…チツ、しゃあねえな

…ちよくちよく不評なコメあつて草

「サクたんが数日間謹慎処分になったからな！ 代わりと言ってはなんだが、この俺が配信してやるぜ！」

俺が別の仕事で県外にいた際、咲太はSランクダンジョンの大氾濫を単独で止めてみせた。

しかしアイツの探索者ランクはE。そのため、Sランクダンジョンに入ること自体違法だし、ましてやスタンピード中。

そんなわけで、処分がきつちり下されたのだ。県を救った英雄として勲章も近い日に贈られるそうだが。

チャンネルサクたん…お家で見てるから頑張れ〜！

「ガハハ！ お前の代わりに緊張るぜ〜！」

暇してる咲太に「なんかしてほしいことあるか」と聞いたら、「ダンジョン配信をしてほしい！」

と言われたので、アイツにあげたカメラを一旦返してもらってそれで配信をしている。

使い方は相変わらずわからないため、咲太に言われるがまま進めてなんとか配信にこぎつけることには成功した。ちなみにチャネルもわざわざ咲太に作ってもらった。

「今日はAランクダンジョンだな。まあこの俺がダンジョンのなんたるかを教えてやんよ」

..上から目線キチー

..サクたんを返せ

..まあ貴重だし……一応聞いたるか

..ちゃんとしてくれよオ?

..聞いてやるのはこつちだぞゴラ

舐めた態度してつと帰るぞ???

..あくしろボケ

「なんでこんな好戦的なコイツら……」

リスナーどもの態度がびっくりするくらいでかいぜ……。俺のメンタルがもう少し弱かったら泣いてたところだ。

気を取り直し、早速ダンジョンを攻略することにした。

「えー、前も言ったかもしれないが、上層はゴミだ！ 雑魚^{ざこ}はつか。だからショートカットする

ぜ!! 真似しろよな!!」

——ドゴオオオオオン!!!!

ダンジョンの床を殴り、どんどんと下の階へと下り始める。

フ
ア
|
|
|
|
w
w
w

..※真似できません

..これがXランクW

.. つば人間じゃねえ!!!!

チャンネルサクたん..今度真似してみるね〜

..やめろサクたんww

.. 幻獸使えばできちゃうんよなー……

..なんでもありだな

ボコスカと地面を殴り続けていると、広い空間へとたどり着いた。どうやらもうボス部屋に着いたみたいだ。

「えーっと、ここのボスは確か……」

『ブルブルルルウ!!』

..ギガントスライムだ！

..物理攻撃無効のスライムだっけか？

..あれ、リョーが駄目じゃ……？

..ピンチっぽくて草

嫌だよ、男の触手プレイとかいらないぜ

.. 炎が弱点やで

.. 見せてもらおうか

「物理攻撃無効って説明で書かれてることあるよな？ あれ、真に受けたらダメだぜ！ 鵜呑みにすんなってことよ」

[illegible]

瞬間、ギガントスライムは弾け飛び、ジュワア……と音を立てて蒸発して霧散した。

ボスの攻略完了である。

..もちろん鵜呑みにしねえよ。お前の言葉をな

..
やばすぎ
W
W

.. 化け物さんこんにちは

..物理攻撃無効を無理やり物理で突破したw

.. リョーガ、お前説明すんな

..教師とか絶対向いてないよw

..そういうんだけど、ここ、物理攻撃無効が多いクソダンジョンじゃんね

.. 拳で万事解決漢

何やらリスナーどもは不満があるみたいだが、気にせずにどんどん下の階層へと下りていく。

すると今度はひんやりとした空気に包まれ、不気味な声がこだまし始めている。

「ゴーストだな！」

『才才才……！』

「殴るぜ！」

「ガウンッ！！！！」

半透明で下半身がない人型の魔物を殴ると、一瞬で消滅した。

..
は
?

.. 待て待て待て

..ゴーストは完全に物理無効のはずでは？w

.. 正攻法は聖水とか眩しい光で実体化とかだぞ

..すげー重低音鳴ったけど何したwww

..Xランクなんだなあ(遠い目)

..持ち上げるべきなんだろうが、リョーガだからなんか嫌だ……!

..→わかるマン

..図に乗らせたくないよね

「お前らなんで俺のことそんなに嫌いなんだよ……。まあいいけど。えーっとだな、簡単に説明すると、空間ごと消滅させるパンチをしたただけだ!」

..huh???

..はいはい、チート

..パワーがあればなんでもできるのねw

..筋肉イズジャステイス

だがこれは結構大変だし、習得するのにだいぶ時間がかかった。あのムキムキピーマンとやらも素質があるだろうが、まだ経験が足りなさそうだしな。

しかし、魔物どもはどれも雑魚ばかりだし、本当にこの配信が楽しいのかわからなくなってきたな。

「質問でも受け付けるか。なんかよこせ!」

..どうやってそんなパワーつけたん?

「知らん! 強いて言うなら筋トレ!」

..サクたんとこの馴れ初めは?

「幼稚園一緒に、そこで話しかけてくれたことだな! ちなみに昔のアイツはめちゃくちゃヤンチャだったぜ」

..なんでXランクになったの?

「趣味探しのなりゆきだな。自分でもよくわかんねえ」

..好きな食べ物?

「サクたんの手料理! まあ無理な時は自分で炭酸水かけご飯食ってるぜ」

..え……?

..炭酸水かけたご飯……??w

..うふ

..質問がどれも参考にならぬ

..有益なのはサクたんの情報だけw

..イかれてんな

..筋トレとなりゆきでXランクになる奴草

..聞けば聞くほど訳がわからないな。コイツとサクたんw

質問を返しながら下へ下へと進んでいたのだが、ピタリと腕が止まる。
「……………。なんか飽きた！ 帰るわ！！ お前らじゃーなー」

…え？

…ちよ、は？w

…はやっ

…飽き性すぎるww

…三十分坊主

…配信向いてねえなw

チャンネルサクたん…もう終わりかー

——プチッ。

こうして、高力涼牙の初配信は幕を閉じた。

第4話

スタシビド
大汜濫の元凶である深層第七階のボスを倒し終えた数分後、駆動さんがわざわざやってきてくれ

て、無事に地上に帰ることができた。

配信の最後の同接数やスーパーチャット額がとんでもなかったため、また気絶しそうになったの
だけど、それは駆動さんにしか知られていない。

そして、駆動さん、担任の先生、警察やダンジョン管理者からはこっ酷く叱られ、家に帰らされ
た。

ちなみに天宮城うぐししろさんは「散々叱られたんでしうから、私は何も言わないわ。お帰りなさい」と
言って豪勢なお肉料理を振る舞ってくれた。

一応ピーマン料理もあったものの、お肉料理で中和して食べることができて助かったなあ。

そして現在、僕は家のソファで寝そべっている。

「あー……暇だなあ……」

僕の行動には色々と問題があったみたいで、数日間謹慎処分となつてめちやくちや暇している
のだ。

涼牙はもう配信飽きて切っちゃったし、ペットたちのお世話も終わったし、宿題もないし……
何しようかなあ。

『クルルウ』

「ピー助、スマホつかないでー」

ハタタドリ
霹靂鳥のピー助にスマホを突かれて邪魔されつつ、何か良い暇つぶしはないかと画面をスワイ

プさせる。

そんな時、ふと見慣れた顔が画面に映った。

「……あれ、凜理^{りり}」だ」

僕の幼馴染の一人で、凜理というちよつと変わった女の子が突如画面に映し出される。

「リリーお嬢様のダンジョン配信チャンネル」というチャンネルで配信していた。

そういえばだいたいぶ前にメールで「配信するから見てくださいね」と言われたような……

「せっかくだし見てみよ！」

タップをし、凜理の配信を見ることにした。

#

金色のハーフアップに翡翠色^{ひすい}の目を持ち、フリフリのドレスと剣を持つこの人こそが凜理である。Dランクのダンジョンで配信しているらしく、バツバツサとゴ布林たちを薙ぎ払っていた。『ふー。この程度の魔物は話になりませんね。ここらでワタクシ特製のお紅茶でも飲んで休憩しましょうか』

…さすがですお嬢様

…お紅茶の時間ですな

…ゆっくり休憩しましょうお嬢様

…ゴ布林を倒す姿は惚れ惚れしますね

…このコメ欄なんだ……？

…→リリーお嬢様のコメ欄は洗練された執事リスナーが多いのですよ

…洗脳されてそっ……

一つ一つの仕草がどれも綺麗^{きれい}なもので、まさにお嬢様の名を冠するには相応^{ふさわ}しいと思えるほどだ。『うふふふ』ではもう少し進んだら今日の配信は終了いたしますわ』その後も、凛^{りん}とした姿勢や優雅さを見せつけながら配信が続き、リスナーさんたちを魅了^{みりょう}していた。

僕は普段の彼女の姿を知っているの、なんともむず痒^{がゆ}い気持ちになるけど。

『では、また次の配信で会いましょう。それでは、ごきげんよう〜♪』

…ごきげんよー！

…もう終わっちゃったか……

…別の配信見てから来たが、すぐ終わっちゃったな

…今日もお美しかったですね

『……………ふう、配信終わりましたね』
「あれ？」

カメラの停止ボタンを押したかのように見えたが配信は終了しておらず、そのまま凜理の姿が映し続けられていた。配信の切り忘れだろうか。

リスナーさんたちも同じように思ったのか、なんとかして知らせようとするが、全く気がつく素振りはない。

すると――

『……………なんだか悲鳴が聞こえた気がしますわね……。めんどいけど行きましようか』

凜理はそう口にして、ダンジョンの奥へ進み出す。

…おっと？

…一瞬なんか、キャラが剥^はがれかけてたようなw

…盛り上がってきました

…お嬢様気づいてください！

…まだ配信中だぞおー

…これは大変なことになってきたなww

ずっと配信はつけっぱなしだが、凜理はお構いなくダンジョン内を散策し、悲鳴の主と思われる

人物に遭遇していた。

壁に張り付けにされている女性がおり、助けを求めている。

『あ、あの！ 助けてください！』

…なんか……変じゃね？

…顔に違和感ある希ガス

…“不気味の谷”現象ってやつだな

…これミミックの上位互換じゃね!?

…Dランクダンジョンだぞ？

…イレギュラーだ!!

…しかも時間経過で出口も塞いでくる厄介な魔物

…リリーお嬢様もしかして知らないんじゃない……

…やばいやばいやばい

凜理は『ふむ』と唇に指をつけて考え込んだあと、こう言い放った。

『DMのお方でしたか。お邪魔して申し訳ございません』

『違うに決まってるでしょ！ 魔物に囚われたから助けてほしいの！ 気分が悪くて今にも吐きそうで……』

『ああ！ それならご安心を。ワタクシ、他人がゲロを吐く姿を見て興奮する性癖を持っておりま
すの♪』

……うーん。

どうやら、凜理の化けの皮が剥がされ始めたみたいだ。

…え……？

…今、なんて？

…草ア！w w w w

…【悲報】リリーお嬢様、他人のゲロ見て興奮するやべー女だったw w

…放送 事故

…オイオイオイオイ

…盛り上がってきたー！w

一応凜理に配信をつけ忘れていたというメールを送ったのだが、たぶんもう無駄だろう。

『え……は？ な、何言ってるの……』

『何を言っている？ それはそちらではなくって？ しゃべる暇があるならとつと吐瀉物^{としゃぶつ}ぶち撒

きあそばせ？ さもなくば腹パンして吐かせますわ』

『や、やばい女だ……!!』

…魔物にやばいと言わせるお嬢様草

…おもしれーやべー女

…正体現したわね

…なw にw こw いw つw

…汚嬢様^おだった

…もうあと戻りできないゾ♡

…く現在進行系でキャラ崩壊中

…今北。お嬢様嘘だよな……？

…大マジなんだよなあw

ボキボキと指を鳴らし始める凜理に対して、彼女の理不尽さに驚きを隠せない人型の魔物。
こうなったらもう止められないかなあ。

『本当にピンチなのですか？ 先ほどは、魔物に囚われて今にも吐きそうで、とかなんとかほざい
ていたのに……』

『ピンチよ！ バカじゃないの！！？』

凜理の表情が変わる。凜理も気づいたらしい。

『あ？ テメエぶち殺……いや、まだもつたいたないですわね。えー、まず貴女の言葉暴力罪、ワ